

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価

令和5年2月24日

1 建学の精神 「敬・実・和」 まごころをもって 他の人を敬愛し 和をはかる

## 2 教育目標

「仲良く・正しく・強く・朗らか」な人間性豊かな幼児を育てる

たくましく

心身共に健康で、元気な明るい子ども

かしこく

よく見、よく聞き、よく考える子ども

だれとでもなかよく

みんなとなかよく、のびのびと遊ぶ子ども

まっすぐなところで

きまりを守り、進んでよいことをする子ども

## 3 本年度重点的に取り組む目標・計画

### 笑顔いっぱい たかだま幼稚園 ～子どもの笑顔を真ん中に～



子どもたちの笑顔いっぱいの幼稚園にするために

- ①家庭と力を合わせ短大と連携して
- ②伸び伸びとした自由保育を中心に
- ③園児一人ひとりみんなを大切にしたい質の高い教育を実践します。

## 4 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	笑顔を創る教育の実践 ◇関連プロジェクト項目： 1・4・5・11	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びからの学びを大切にしたい教育を今年度も継続して実践した。いろいろな遊びの方向性を示しながら、子どもたちが自分で選んだ好きな遊びをのびのびと笑顔いっぱい遊び込むことができた。</li> <li>・今年度もプロセスを大切にして、その中で子どもたちの成長を促す教育を実践した。試行錯誤の繰り返しやその中で他とのいろいろな関わりの積み重ねを通して、できる・できないだけではない子どもたちの心の成長を大いに感じることができた。</li> <li>・「造形遊び」や「運動遊び」、土粘土遊び、本園の特色ある活動となっているフィンガー・ボディーペインティングに加え、今年度は「水鉄砲遊び」を新規に実施するなど、短大との連携により意義ある教育活動を充実し、子どもたちに提供することができた。</li> <li>・花王の手洗い講座やアース製菓のモンダミン歯磨き講座など、外部講師による有意義で楽しい学習の機会を設けることができた。</li> </ul>
2	笑顔を真ん中にした 連携と協力 ◇関連プロジェクト項目： 2・3・6・7・8・9・12	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談や連絡帳、電話等、色々な機会を通して家庭との意思疎通を図るよう努力してきた。そのため、概ね良好な信頼関係の中で子どもを真ん中にした家庭との連携が図られたものと考えている。</li> <li>・3年ぶりに祖父母参観を実施するなど、できる範囲で可能な限り参観の機会を設けるようにしてきた。しかし、コロナ禍により人数制限が必要なことなど、まだまだ十分ではない状況が続いている。</li> <li>・保護者のみなさんから協賛をいただき、新遊具設置及びお披露目会等、保護者のみなさんと一緒に創立50周年を祝うことができた。</li> <li>・羽陽短大との連携を図り力添えをいただくことで、教育活動を充実させることができた。</li> <li>・今年度もPTA総会が書面議決となるなど、新型コロナの影響により制限のあるPTA活動となった。しかし、その制限下の中でもしっかりと後ろ盾となってお協力いただけたことは嬉しかった。</li> </ul>

3	<p>笑顔を支える環境づくり</p> <p>◇関連プロジェクト項目： 5・6・10・11</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人が子どもにとって最高の「環境」となれるよう努力してきた。園と家庭との連携及び子どもと職員の信頼関係の面から、子どもたちにとって良好な人的環境が作れていると考える。</li> <li>家庭より協力いただいた廃材の利用や新しい遊びの方向性の提示など、好きな遊びを思い切り楽しめるような環境づくりに努めた。</li> <li>創立50周年記念事業により保護者のみなさんのご協力により園庭に新遊具「アンパンマンと森のロッジ」を設置することができた。</li> <li>長年大切に使い込んできた園舎や設備であるが、経年の劣化がみえるようになってきている。特に水回りの部分や遊具に古さが出てきており、安全面からすべり台1基使用中止にしている他、今年度は子どもたちに人気だったジャングルグローブを撤去した。</li> <li>四季を感じさせる広い園庭が子どもたちがのびのびと思い切り遊べるよい環境となっている。</li> </ul>
---	--	---	--

評価（A：十分に成果あり B：成果あり C：あまり成果なし D：成果なし）

## 5 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>今年度も保護者のみなさんより、たくさんの温かい感謝の言葉と、各項目とも好意的な評価を高い割合（99%～100%）でいただくことができた。また、職員の自己評価で「子どもや親の悩みや相談に親身に応じている」をはじめ4つの項目について全員が「あてはまる」と自信をもって回答しており、職員一人一人が保護者のみなさんと共に子どもたちの笑顔のために誠実に精一杯がんばってくることができたことが読み取れた。これらのことから、前記「評価項目の達成及び取組状況」を勘案して、「笑顔いっぱいいたかだま幼稚園」を重点とした今年度の園づくりに十分成果があった（評価A）と判断される。</p> <p>保護者のみなさんから信頼をいただき任せていただいているという実感が、職員一人一人が安心して自信をもって子どもたちに向き合える大きな力となって教育活動を充実できたことが、この評価につながったものとする。また、羽陽短大からの力添えによる豊かな教育活動の実践もしっかりと定着し、本園の大きな特色として子どもたちの笑顔に大きくつながっているものとする。</p>

評価（A：十分に成果あり B：成果あり C：あまり成果なし D：成果なし）

## 6 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育活動の充実	<p>子どもたちの今と未来の笑顔のために、来年度も今年度同様に以下のことを重点として教育活動の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①遊び込むことを通した、好きな「遊び」からの「学び」を大切にした教育</li> <li>②試行錯誤や他とのかかわりなど取り組みの「プロセス」を大切にする教育</li> <li>③子どもたちにとっての「温かい保育」</li> <li>④羽陽学園短期大学との連携による「豊かで意義ある体験・活動」（造形遊び・運動遊び・水鉄砲遊び・短大生と遊ぼう等の継続実践）</li> </ul>
2	教育環境の充実	<p>以下のことに力点を置き、子どもたちの笑顔のための教育環境の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①職員こそが子どもたちにとって最高の「環境」となれるよう努力すること。</li> <li>②園と家庭が同じ気持ちで子どもの教育にあたれるよう、あらゆる機会を通して意思疎通を図り、気兼ねなく相談し合える関係をつくること。</li> <li>③安心安全な園内環境の整備に努力すること。</li> <li>④認定こども園への移行に向けてより愛される園づくりの準備を始めること。</li> </ul>

## 7 学校関係者評価委員の評価

### ◇評価者 花田嘉雄 評価委員（羽陽学園短期大学教授）

#### ①評価できる点

- ・笑顔いっぱいたかだま幼稚園～子どもの笑顔を真ん中に～という目標の通り、自由保育を中心に子ども主体の伸び伸びとした教育を実践されている点が高く評価できます。昨年度と同様、コロナ禍にありながら喜怒哀楽のある元気な子ども達の姿が見られるのは素晴らしいと思います。毎日元気な子ども達の声が短大まで聞こえてきます。また、造形教室で関わらせていただいておりますが、前向きに活動に取り組む子どもの姿や積極的に自分の思いを発言する子どもの姿がたくさん見られます。自主性が育っており、質の高い教育をされていることが窺われます。
- ・保護者アンケートでは子どもの満足度、子どもの笑顔を真ん中にした家庭との連携に関する項目が非常に高く、また保護者から寄せられた声からも窺われますが、先生方と保護者が子どもを中心に温かい信頼関係を築かれている点が高く評価できます。職員アンケートでもこれらの項目が満点であり、一人一人の先生方が最高の人的環境として責任感と自信をもって、時には試行錯誤しながら真摯に向き合っていることが窺われます。

#### ②改善が必要と思われる点

- ・施設やコロナ禍における行事、その他の要望に対して丁寧に検討し、可能な範囲で対応されていますので、今後も保護者からの声を大切に負担のない範囲で改善していただけたらと思います。

#### ③その他

- ・毎年、実習では大変お世話になり、感謝しております。先生方の優しく丁寧なご指導と素直で朗らかな子ども達のおかげで、充実した実習になっております。また、本学との連携の幅も年々広がっており、学生にとって貴重な体験をさせていただいております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・最後に、創立50周年、おめでとうございます。今後、認定こども園への移行に向けて、ますます笑顔あふれるたかだま幼稚園になるようお祈り申し上げます。

### ◇評価者 高橋洋光 評価委員（たかだま幼稚園 PTA 会長）

昨年に引き続き、肯定的なご意見が多数でしたので一安心しています。また、全体的に昨年のよりも「ややあてはまる」から「あてはまる」のご意見が増加していると感じています。園長先生はじめ、職員の皆様が日頃から意識されて行動されていたのだと思い、感謝いたします。

この度のアンケートに対し、以下の通り考えてみました。

#### ① 保護者の参観機会の設定（アンケート）

職員の皆様は「ややあてはまる」のご意見が半数以上を占めておりました。恐らくは、コロナ禍前のような参観機会に戻したいのですが、コロナの方針が緩和されつつもなかなか難しく、出来る限りの機会を設定する以外なかったのではとお察しいたします。以前のような参観回数になることを祈っています。

#### ② 施設・設備（アンケート）

アンケートの中で唯一否定的な意見があったのがこの項目です。確かにトイレやグラウンドの遊具など、改善・修繕が必要な個所があると思います。少しずつでかまいませんので、実現頂ければと思います。

#### ③ お礼

アンケートとの直接的な関わりではありませんが、園児たちが毎日快適な生活を送れるのは、運転先生と添乗員の先生から毎日送迎頂いているからです。園生活の土台と思っています。毎朝元気に挨拶頂く添乗員の先生、全国で相次いで事件・事故が発生している中で、点検を怠らず、無事故無違反の運転先生、本当にありがとうございます。今後とも健康と安全第一でよろしくお願い致します。

◇評価者 坂本 修 評価委員（たかだま幼稚園 PTA 副会長）

コロナ禍3年目となり、コロナに対する認識や対応の変化が著しい1年間だったと感じています。幼稚園においても感染状況をみながらの行事の開催や学年閉鎖の判断など、とても苦労されたことと思います。今年は創立50周年にあたり、そのお祝いを保護者も一緒に行うことができたのは、園長先生をはじめとした先生方のご尽力の賜物だと思えます。評価結果に関してはどの項目も十分に成果ありの高評価となっており、素晴らしい結果だと思えます。

各項目ごとにコメントさせていただきます。

- ・笑顔を創る教育の実践：一年間を通して様々な遊び・活動・行事を実施して頂きました。子供達の自己決定や試行錯誤などプロセスを大切に取り組んだ結果、子供達が自分らしくのびのびと活動する姿、成功の喜びや失敗のくやしさを受け止める姿、友達の気持ちを思いやる姿を見ることが出来ました。
- ・笑顔を真ん中にした連携と協力：先生方と保護者との会話や手紙での連絡が密にとれており、保護者からも高く評価する声が多く聞かれています。先生方のふだんの保育での目配り・気配りや保護者と積極的に連携をとろうとする努力を感じ取ることが出来ました。
- ・笑顔を支える環境づくり：人的環境の面では先生方が最高の環境となるために努力をしていると聞き納得できるものがあります。これからも頑張ってください。物的環境では、経年劣化は否めません。アンケートからも施設や設備の活用のしづらさの指摘があがっています。今後も計画的な物的環境の整備をお願いします。今年はアンパンマンの新遊具が設置されました。さくら組から年長組まで思い思いの遊び方ですべり台をしたりおうちごっこをしたりといろいろな遊び方ができる素敵な遊具が増えてよかったです。これからもますます子どもたちの笑顔いっぱいあふれるたかだま幼稚園になる事を期待しています。

◇評価者 羽田奈々重 評価委員（たかだま幼稚園 PTA 副会長）

コロナ禍3年目、通常の園生活に加え、各行事の開催においても、流行状況によってのご判断、対応に苦慮されたことと存じます。大きなトラブルもなく、ほとんどの行事を催行できたのではないのでしょうか。園内におけるコロナ流行も何度かピークがありましたが、その都度マチコミでの情報共有は迅速でそれ以上増やさない努力は大変評価できると思えます。

少し前に、幼稚園、保育園における不祥事が県内外でも大きなニュースとなり、心を痛めておりました。耳を疑うようなことが起きていて、たかだま幼稚園にかぎってはありえないと思いましたが、そういうことを絶対に起こさない為に、よりいっそう園と保護者との密な連絡や点検、確認が必要であると改めて感じました。保護者からのアンケートには、子供たちと先生との関係性がとても良好であるという声が多くあり、安どの気持ちで読ませて頂くことができました。職員のチーム力が高く、園内の「風」がよいのだと思えます。子供に関することで、担任以外の先生でも話が通じていることが多くあり、職員間での報告、連絡、相談が円滑にできていると思えます。また、短期間でしたが、外国人のお子さんの受け入れの際、先生方が奔走する姿がありましたが、そういったイレギュラーなことも、園全体でカバーできていました。在園児も試行錯誤しながらコミュニケーションをとることで、思いやりの心を育み、貴重な経験になったと思えます。今後も風紀良く、風通し良く、素晴らしい環境を継承して行って欲しいです。

アンケートの中で、毎週月曜日の手作り弁当の回数を減らして欲しいという要望が数件あり、先日のPTA役員会にて議論しました。さまざまな意見が出ましたが、意義を考慮した上で、慎重に決めていく必要のある課題として、次年度に持ち越しとなりました。また、認定こども園への移行を視野に入れた中で、ニーズの変化とともに新たな意見が出てくるものと思われま。その時々で議論し、子供たちにとって最善を尽くしていくことを望みます。